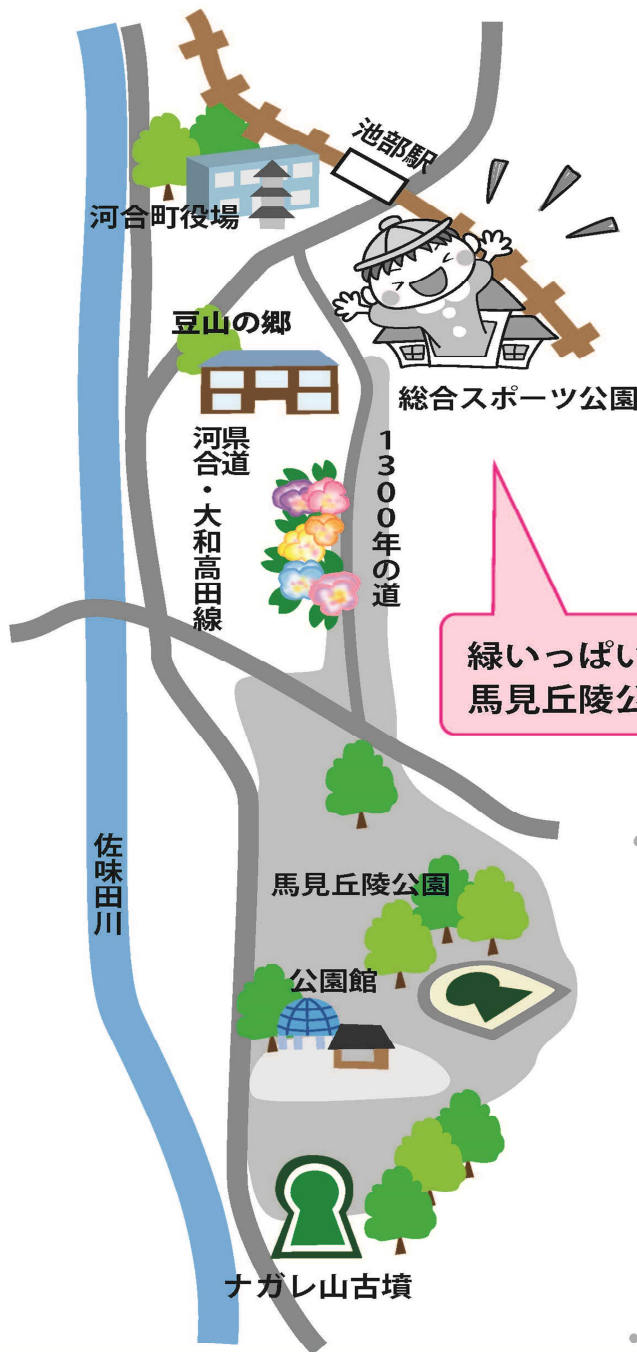


認定こども園

～河合町にしかない絶好の環境に～

◎奈良県でも全国でも
類を見ない立地



近鉄池部駅に至近

こだわりの木造建築

総合スポーツ公園内

安全(防犯)に配慮

緑いっぱい!
馬見丘陵公園に隣接

～多感な子どもへ
貴重なふれあい～

「人」

「四季の花々と野鳥」

「新鮮な空気と豊かな自然」

『認定こども園』とは・・・

幼稚園と保育所の両方の長所（一箇所ですべて教育も保育も受けられる）を備えた施設で、保護者の就労の有無や内容にかかわらずライフスタイルに合わせた入園が可能です。

最高の環境（概略図参照）の中で上質できめ細やかなサービスを提供します。

1. 町が実施する認定こども園には次のような特色があります。

①『奈良県でも全国でも類を見ない立地』

- 広大な公園内に建っているかのよう
「馬見丘陵公園が園庭」
- 多感な子どもへ貴重なふれあいの場を提供
- 「人」（家庭事情が異なる子どもたち、親の交流、公園行楽客とのふれあいなど）
- 「四季の花々と野鳥のさえずり」
- 「新鮮な空気と豊かな自然」
- 1300年の道が安心して安全な「集団お散歩コース」
- 木造園舎との相乗効果でより良い子育て環境を形成
- 自然に恵まれながらも池部駅に至近で、しかも自家用車での送迎可能
- 安全（防犯）に配慮

②『保護者の輪の広がりが河合町の絆に』

- 幼稚園・保育所の保護者間の交流が増えるため、人間関係の輪が広がります。

③『幼稚園・保育所の選択が不要』

④『多くの子どもが触れ合い協調性を育成』

■子どもの人数が増えることにより大きな個の単位での集団生活を体験できます。

⑤『一時預かり保育』、『子育て相談』、『食育』、『早寝早起き朝ごはん運動』の実施

⑥『スタッフの加配』

■保育教諭は国の基準以上に配置し、更に保健師や家庭支援教諭などの手厚い配置をします。

⑦『そして・・・』

■当然、他市町村が実施している認定こども園のプログラムと同等のカリキュラムは最低限の取り組みとし、独自の取り組みとして河合町在住の外国人などを通して生の外国語授業なども考えています。

2. なぜ今認定こども園が必要？

～町の活性化のために子育て世代の流出や転入対策は喫緊の課題～

河合町の20歳から39歳の人口は、

- ・1980年 4892人
- ・2010年 3852人
- ・2040年の推計人口は1927人となっています。

(資料：河合町人口ビジョン)

これは、国立社会保障・人口問題研究所が一定の方式に基づいて算出した人口推計ですが、言い換えれば新たな対策をしない場合の人口推計とも言えます。

その間の減収は単純計算で $-1900 \text{ 人} \times 30 \text{ 万円}$ (子育て層 1 世帯あたりの影響額は年間 30 万円) = 5 億 7 千万円です。

町の将来と活性化のためには、子育て世代の転入および転出抑制のための取り組みが不可欠です。

3. 建設には多額な財源と借金が必要？

建設費は約 12 億円ですが、国の支援制度を活用するので実質の負担は 6 億円です。6 億円の借入金を 20 年で返済すると毎年 3 千万円です。

なお、運営費はこれまでとほぼ同額です。

4. 転入促進と転出抑制の効果

子育て層 1 世帯あたりの影響額（増収）は年間 30 万円です。認定こども園が誘因となった効果として 100 世帯で 3 千万円の財源が捻出できます。

5. 町の財政は大丈夫？

将来への影響額については十分検討しています。

他に財源確保として旧広瀬台保育所跡地やその他の町有地の売却を促進して、さらに住民の皆様の負担を軽減していきます。

6. 財政健全化計画と認定こども園

緊縮財政運営だけでは人口減少に拍車がかかり町が衰退してしまいます。

子どもは、まさに町の“宝”であり、その財産に投資し最高の環境を提供するのは、町の未来に繋がります。活性化と健全財政のためには、無駄を無くした効率的な財政運営のほか、都市計画の見直し及び思い切った事業実施による町の魅力創造の取り組みが必要です。